

研究テーマ : 英語学習に対する興味・関心・意欲をいかに持たせるか

|    |           |
|----|-----------|
| 所属 | 安芸市立安芸中学校 |
| 氏名 | 小松乃里子     |
| RG | JH3       |

## 1. 研究の背景

今年の4月から1年生の時は教えていなかった2年生の1クラスを受け持つことになった。彼らが1年生の時にはとにかく落ち着きがなく、私語もあり授業に集中できていなかったと聞いていたので、最初の授業の時には不安を感じながら教室に向かったことを覚えている。しかし、クラス替えがあったせいか、最初の印象はおとなしいものであった。

授業中の態度は大きな声で反応もあり、ほとんどの生徒が集中して説明も聞いている。しかし、英語に対して苦手意識を持っている生徒が数人おり、静かにはしているのだが授業には参加できていない。そういう生徒たちをなんとか授業に参加させ、1時間の授業の何かの場面でだけでも授業に参加したという充実感(自信)を持たせることができれば、また授業以外の場面でも何かの形で自信を持たせることができれば、その充実感が英語学習に対する意欲につながっていくのではないだろうか考える。

今回のアクション・リサーチを通して今までの実践をもう一度振り返り、今後につなげていきたい。

## 2. リサーチクエスト

英語学習にいかに興味・関心・意欲を持たせるか  
(いかに生徒に自信を持たせるか)

## 3. 予備調査

## ①授業観察の結果

- 授業に対する反応に差があり、教師の発問に対してすぐ反応できる生徒もいれば、うつむいて説明を聞こうとせず拒否反応を示す生徒もいる。また、4月当初は教科書、ノートなどを一切開かない、見ない、書かない生徒がいた。
- 新出単語の発音や本文の読みの練習の時には、ほとんどの生徒が大きな声で発音し読んでいる。しかし、特に本文の読みに関しては全くお手上げ状態の生徒も数人いる。
- 教科書の絵を見ながらのリスニング問題やリスニングポイントを与えての本文の内容読解の際に、積極的に聞き取ろうと努力している生徒もいれば、全くやる気の見られない生徒の姿も見られる。
- インタビューゲームやビンゴゲームなどの活動には、ほとんどの生徒が積極的に取り組み楽しんでいるようである。英語に対して苦手意識を持っている生徒には、ペアワークやグループワークで一緒になった生徒が気持ちよく教えてくれるので、わからないなりにゲームに参加できている。

## ②生徒の英語学習意識(授業以外の取組を含めて)

- 単語力をつけてもらうために、毎日英語の練習帳を1ページ宿題として課している。4月当初は全く提出できていない生徒もいた。また、提出はできているが内容はどうでもいい、提出したらそれでいいという生徒もいた。
- プログラムが終わるごとに各セクションの単語テストを実施した。女子はほとんどの生徒が意欲的に取り組めており、毎回高得点を取っている。
- リーディングテスト(教科書の本文)を定期テスト前に実施している。範囲は定期テストの範囲のページであり、テスト勉強も兼ねて実施している。ほとんどの生徒がテスト当日までにどこを指定されても読めるように努力できている。

## 4. 仮説の設定

## 仮説 1

本文の内容読解をする時に、いくつかのリスニングポイントを与えて考えさせている。そこで、3回のリスニングの方法をそれぞれの生徒のレベルに合わせて、またその時の内容に合わせて変えさせることにより、自分に適した方法で無理をせずリスニングができるのではないだろうか？

## 仮説 2

リーディングテストを実施する時、予め範囲を指定し定期テストの勉強も兼ねてできるようにしている。単語の段階で読めない生徒には、単語に読み仮名をふっておいてもかまわないようにする。本来なら良い方法ではないのかもしれないが、とにかく読み仮名を見ながらでも最後まで読めたという達成感を味わえるのではないだろうか？

## 仮説 3

単語を覚えてもらうためにプログラムが終わるごとに各セクションごとの単語テストを実施している。従来は、単語や連語の5問テストを行ってきたが、5問中1問はそのページの本文中から1文出題することにより、単語も英文も覚えることができるのではないだろうか？

## 仮説 4

毎日1ページの練習帳の習慣化と内容を工夫させることにより、単語や連語及び英文を覚えることにつなげたい。それが単語テストに対する意識づけ、さらには英語学習に対する意欲につながっていくのではないだろうか？

## 仮説 5

インタビューゲームやビンゴゲームなどの活動を行うことにより、楽しみながらかつ単語や基本文を覚えることができるのではないだろうか？また、それがリスニング力やスピーキング力をつけることにもつながっていくのではないだろうか？

## 5. 計画の実践

(1) 3回のリスニングの方法を、その時の内容に合わせ、また自分に適した方法で行わせる。

(例) 3回とも、本文の英文を見ながらリスニングポイントを考える。

1回目は本文の英文を見ながら、2、3回目は見ないでリスニングポイントを考える。

1、2回目は本文の英文を見ながら、3回目は見ないでリスニングポイントを考える。

3回とも、本文の英文を見ないでリスニングポイントを考える。

(2) リーディングテストの時に生徒に達成感を持たせられるよう、生徒のレベルに合わせた方法を取らせる。(単語に読み仮名をふらせてテストを受けることをOKにする。)

(3) 5問の単語テストの最後の1問として、本文中の英文を出題する。

(4) 毎日1ページの練習帳を宿題として提出させる。また、ノート提出をした際にアドバイスをし、内容をより良いものにさせる。

(5) インタビュゲームやビンゴゲーム等の活動を通して、楽しみながら単語や基本文を覚えさせる。

## 6. 実践の結果

(1) それぞれが自分のレベルに合わせてリスニングに取り組んでいる。中には、3回とも本文の英文を見ないで理解しようとしている生徒もいるが、やはりある程度のレベルに達している生徒であり、リスニングの後の内容の確認でもほぼ内容を聞き取れている。しかし、その一方でリスニング自体に参加できていない生徒がいるのも事実である。

(2) 読み仮名をふらないと単語が読めない生徒でも、一生懸命英文を読もうとする姿勢が見られた。しかしその反面、一部の生徒はリーディングテストまでにある程度の日数を与えているにもかかわらず、読もうとする努力が足りない。どこまで手を足していいものか悩むところである。

(3) 5問目が本文中の英文ということで最初は戸惑っていた生徒もいたようだが、1回、2回と回数を重ねるうちにそれにも慣れ、100点を目指して取り組むようになった生徒、あるいは10点ずつ点数を上げるように自分で目標を立て取り組めた生徒もいた。しかし、毎回0点や10点をとり続けている生徒もいるのが現状である。定期テストでは高得点が取れないが、単語テストで70点、80点を取ることで笑顔が見られ始めた生徒もあり、その充実感をなんとか英語への興味へとつなげていきたいところである。

(4) アドバイスを受け入れ内容が日に日に良くなっていく生徒、例えば自分で自主的に日記を書いてきた生徒もいれば、1ページの内容ががらりと変わり意欲的に取り組み始めた生徒もいる。また、練習帳の提出自体ができていなかったのだが、それができるようになり、なおかつ単語テストの点数が上がってきた生徒もいる。2学期になり、担任の先生の協力もあり、毎週居残りの日である木曜日までには全員が提出できるようになった。しかし、全員提出という目標はほぼ達成できたが、力をつけるだけの充実した内容かと聞かれると頭が痛いところである。

(5) ほとんどの生徒がペアワークやグループワーク、そして全体での活動に参加し、楽しみながらゲームなどの活動を行うことができた。また、活動の時、英語を使おうとする姿勢も見られた。さらに、英語の苦手な生徒に対して気持ちよく教え合いができる仲間作りができていることもありがたいことであった。しかし、単語や基本文の定着というところまではなかなか到達できていない。ただ、英語に対して苦手意識を持ち普段の授業では全く参加できていない生徒が、わからないなりに英語での活動を楽しんでいる姿を見られるというのは唯一の救いである。

## 7. 結果の検証

(1) リスニング自体に参加できていない生徒への手だてが継続的な課題である。

(2) リーディングの練習の時に全員が読み仮名をふれるだけの十分な時間をもっと取るべきだろうか？しかし、そうすると時間が間延びしてしまう恐れが出てくるのではないだろうか？もちろん、読み仮名をふったプリントを渡すということもできるのだが、果たしてそこまで手を足していいものかどうか悩むところである。

(3) 単語テストについては、ほとんどの生徒が自分のペースで取り組み始めたように思う。また、点数が上がってきた生徒に共通して言えることは、練習帳の内容が以前よりも充実してきたことである。

(4) ほとんどの生徒が居残り日までには練習帳の提出ができ始めた。次の課題は、内容の充実と毎日の提出である。

(5) これからも時間が取れる限りペアワークやグループワークでの活動を取り入れ、生徒に楽しみながら英語に触れることができる機会を与えていきたいと思う。

## 8. 成果と今後の課題

本来なら1つのテーマに絞るべきだったのだが、あれこれ考えているうちにこの機会に今までの自分の実践を振り返ってみようと考えた。5つの仮説を頭に置きながら生徒の様子を見てきたが、すべての場面でのがんばりが見られなくても、一人一人が何かの場面でがんばる姿勢が見られたように思う。

例えば、4月当初は教科書、ノート、ワークなどを一切開かない、見ない、また板書も全く写さない生徒がいたのだが、その生徒が学習準備をし、気が向けばノートも取り始め、また毎日のように居残り組になっていた練習帳を毎日確実に提出でき始めたのには驚いた。残念ながら、それを次の段階へと導いていく力が私自身に不足していたのではないのかという反省だけが残る。

今回、生徒を見ていて改めて感じたことは、たとえ表面的には「英語が嫌いだ。」という言葉の口にしてはいる生徒であっても、一人一人ががんばりたい(できれば英語がわかるようになりたい)という気持ちを持っており、そのきっかけを探しているのではないだろうかということである。「今回のテスト、がんばったね。」「今日の授業は集中できていたね。」「練習帳の内容がよくなったね。」・・・私の何気ない一言に生徒は笑顔を見せてくれる。生徒のがんばりたいという気持ちを、また生徒との人間関係を大切にしながら、これからも生徒と接していきたいと思う。

また、今回の研修を通して自分自身の英語力の低下を痛感した。生徒指導等で忙しい毎日ではあるが、自分を磨く時間も確保しなければいけないと改めて考えさせられた。